

見学会

あいにくの雨の中10月22日に弊社のお客様で家具作りの教室に通っていらっしゃる5名の女性が服部商店の岸和田本社まで工場見学の為に来社されました。

この企画の始まりは私が毎月送付している服部新聞を見られ、凄く面白いことをされているなとのお電話を頂き是非工場見学をさせていただけますかと言うのが始まりです。

参加されました5名の女性の質問の大まかな事を下に書きます。(質問内容は充実していました。)

- 何をしているところですか?
- 材木を何処から買って何処へ売るのですか?
- 扱っている木の種類と産出国は?
- 業界の現状は?
- 国産材は使いやすくなるのでしょうか?
- 新建材を使いたくない。木を使いたいが目を養うのにどうすればよいか?
- 木の特性と其れに有った用途を幾つか具体的に教えて欲しい

以上が主な質問でした。

私がお答えしたのは上記全ての事ですが、それ以外で話の盛り上がった話の内容を下に書きます。

地球を北極からまず見てください。するとほぼ同じ様な木が世界中に存在することが解ります。針葉樹・広葉樹とも同じです。但し広葉樹の中でカツラ・ホオ・セン・マカバの四種類は日本しか有りません。

国産広葉樹原木の流通は現在全て市場を通すようになっていきます。市場を通す事で価格がオープンになります。最も国内産の優良広葉樹原木は100本に1本有るかどうかの世界になっており凄く供給が出来なくなっていますとお答えしました。

外国産針葉樹の流通無しには今の木材需要に対して満足する供給は事実上不可能です。私の思いは現在伐採時期に来ているスギ・ヒノキを取りあえず使って下さい。その後自然の森に近い形の森林にする為に生態系を考えた植林をして欲しい。取りあえず構造材は国産針葉樹のスギ・ヒノキを使って欲しいです。とお答えしました。

ところで日本の森林の荒廃した原因も私なりに伝えました。まず住まいの作り方が変わりました。昔の住まい作りは真壁工法でした。それが何故か現在は大壁工法になってしまった事も国内の森林を荒廃させる事に繋がったのではと思います。大壁工法なら柱のチリも見えませんが、そうなるスギ・ヒノキの良質材は不必要になります。森林家は立ち木で元3メートル若しくは6メートルは無節になるよう山の手入れをしますが、消費者の方が買ってくれないと森林家はやっていけません。

又プレカット工場がコンピューターで木を刻む為にどうしても真っ直ぐな集成材の方が仕事をしやすい事も日本の森林の荒廃に繋がったのではとご説明しました。無垢のスギ・ヒノキはコンピューターで刻む場合多少使

いにくいですが日本人は工夫が少し足りないと言いましたが、しかしスギ・ヒノキで家を建てたら集成材より色々な面で心配ないのに不思議ですよとお答えしました。

最後に服部商店に置いてあるドイツ製の時計を見てもらいました。それはツキ板と無垢を適材適所に使っています。ヨーロッパは決して無垢の文化では有りません。あくまで適材適所だと説明しました。

私は女性が真剣に物作りをしていて本当の事を知りたいという姿勢に感動しました。



【見学会アンケートを用意しています。希望の方が有ればご連絡下さい。】

何故国内に木材資源が豊富に有るにも拘わらず輸入するのかを、私なりにご説明できたと思います。

原木高の製品安が意味するものは何か

木材資源の価格はいつも原木高の製品安で動いていますが、その傾向は良材不足の昨今は特に顕著に現れています。と言うのは全ての樹種で良質材が大変不足しており、ほんの一握りの良質材に業者が群がっています。

広葉樹ではセン・マカバ・メジロカバ・カツラ等が特に異常と思える値動きをしています。どの樹種も最終末端の動きは凄く悪いです。特に建築関係が動かない昨今の状況を見れば誰でも解ると思いますが、景気後退局面なのに、不思議なほど、ほんの一握りの玉は取り合いになっています。

その事で私も凄く悩んでいます。お客様にかなりの値段の値上げを言わざるを得ない状況です。しかしお客様に先行き等の事を聞くと全く売れないから要らないと得意先の方々から言われますが、何も持たなければ商売自身を辞める事に繋がりがありません。又現在の雰囲気の良い状況は誰よりも私は、解ります。だから仕入れの時凄く気を使います。

確かに四～五年前位なら少し景気が悪いと言っても少しは動いていました。ただ今回の金融恐慌が来るのか来ないのか解りませんが、雰囲気の悪いのは凄く肌身に感じます。

ところで最近の原木の懐所(ふところ・中身)は凄く悪くなっています。十年位前なら外観の悪い中身の良い材は確かに幾らか有りました。しかし現在の原木状況は目利きの鋭い目を持ってしてもお客様に良質の商品を提供する事は難しくなっています。

こうした状況を踏まえて私がお客様に御願している事は、一つだけです。其れは欲しいときに欲しい材が中々供給出来ないので、良質材が出たときに出来たら買って下さいと御願しているのです。

その結果理解していただいているお客様には、完璧ではないですが満足して頂いていると個人的には思っています。

確かに国内に木材資源は豊富にあるように見えますが、それは構造材しか向かない細いスギ・ヒノキが圧倒的に多いだけです。そしてそのスギ・ヒノキも径が太い大径原木(直径50センチ以上の優良材)は全体の1%以下しか有りません。そのスギ・ヒノキは色合いが今要望の多い若者向きの色合い(例えばウォールナット色)の住まいの内装には向けませんし又ヒノキの良質大径原木の値段は高いです。

日本国内に有るスギ・ヒノキの森林から供給される材は圧倒的に並材主体若しくは柱・土台等の用途しか向かない材料です。以上の事を踏まえれば国産広葉樹の優良材は決して高いのでは無いのです。相場感だけを比較するとセン・マカバ・カツラ・ホオ・ナラ・タモ等の優良広葉樹と天然のスギ・ヒノキの優良材を比べれば広葉樹の方が高くなったとはいえ割安感があるのでは無いかと思えます。



左からセンの特選原木、真ん中はクルミ特選原木、右端はカツラの特選原木です。全体から見れば1%位しか優良材原木は有りません。優良材は最初から価値が有り値打ちがあるのです。

原木が高いのではなく本当はマーケットが弱すぎるのが現状だと思えます。

材木屋の凋落は何時から始まったのか

南洋材の産地の内インドネシアが原木を輸出禁止にした1990年位から材木屋の凋落が始まったのではと思っています。インドネシアが原木を輸出禁止にした当初材木屋は凄くはしゃぎました。と言うのは現地挽きの素晴らしい板が入ってきたからです。日本でインドネシア・マレーシア産の板と同じ物は作れません。と言うのは、機械は日本製、板にしてから乾燥も立て乾燥してから人工乾燥、耳を落とすのも乾いてから、そして美しいバンドリング。長さもきっちり有り、巾もきっちり有り国内でこれだけの製品を作るのは現実的には無理です。根拠は凄く多くの費用が必要だからです。何百人と言う人は日本では集まりません。大規模な場所も有りません。インドネシア・マレーシアでは人も多くいれば、大規模な場所もあります。それが素晴らしい商品を生んだのです。そのお陰で凄く多くの木材ファンを作れた時代だったと思います。しかしその後インドネシアが製品まで輸出制限をしてきました。当初はプレナを板に掛けるだけで良かったのですが、その後、それも規制し、そして生れたのが今流行のフリー盤と言われる集成材が生れたのです。昨今は庶民の方もホームセンターで購入出来る時代になったのです。【フリー盤の商いこそ材木屋の本懐を無くさせた物です。】



日本製・製材機械

材木屋の仕事とは単純に以下の3要素だと思っています。

1、原木を見る目 2、製材する技術 3、乾燥させる場所
確かに原木は南洋材だけでは有りませんが、日本の高度経済成長を担ったのは南洋材で有った事は紛れも無い事実です。建売り住宅から注文住宅まで幅広く使われました。主な用途は巾広の材は階段板に多用されました。又ハフ板・窓枠にも相当量が消費されました。

しかしそれが、値段が上がるに連れ所謂工業化された建材類に取って代わられたのが現状だと思っています。

私は平成五年1993年にマレーシアに出かけました。写真は当時の物です。この写真はマレーシアサバ州のシピタンの製材工場とケニンガウの工場の物です。凄い量のアガチス材の板が立てて有りました。

この時は商社の人間と行きました。当時の感想をノートに書いてありますが、何処の工場は商品が良いと、製材方法は日本人が仕込んであるとか、原木の品質はどうだとかの細かい情報は書いてありますが、1993年以降に我々日本の材木業者がどうなるのかと言う事は全く書いておりませんでした。

材木屋の凋落は1993年当時から始まったと現在の状況を見たとき思います。

材木屋の仕事とは単純に目利きであって、神様から与えられた天然の資源を如何に上手くコストパフォーマンスを上げ使いこなす事以外に無いのです。

今の木材業者は原点に戻り木材の本質をもう一度見つめ直す事が唯一の仕事で有ると思います。建材を量売る商いではなく、建築士の良きアドバイザーになることこそ本当の材木屋の仕事だと思っています。

原点に戻ることこそ材木屋つまり自分自身を助ける唯一の仕事だと思っています。



立て乾燥



美しくバンドリングする。

木材商社の人間も凄く苦勞しています。

原木は筏に組まれます。一本一本番号が入れられて整理整頓されます。写真に写っているのは、私が取引をさせて頂いている木材商社の面々です。弊社との商いはスプルス原木ですが、米ヘム・米スギ・米ヒバ・米マツ等々多種多様な原木を扱われています。

私は普段筏には乗りませんので腰が全く引けているのが解ると思います。私以外の方は全く慣れた立ち姿に見えますね。

彼らの仕入れは全て現金取引です。販売の方は多少手形が減ったとは聞いていますが、圧倒的にまだ手形の方が多いと聞いております。

信用の与信の心配もしなくてははいけないし、又後継者を育てるのもしなければならぬ。凄く苦勞が多いのが現実だと思います。

確かに仕事だから何から何まで慣れるのは当たり前とは言えない事も無いですが、仕入先との駆け引き又お客様との駆け引き等々若い方を育てるのは本当に多くの難しい事柄が有ります。私がスプルス原木の仕入れをメインにしている会社は凄く厳しい事も言われますが、何より若い者に現場の教育をされているのは本当に頭が下がります。何時も材を分けて頂く時の交渉は凄く厳しいですが、しかし何か解りませんが魅力が有るので。多分その会社の上層部の経営者の方々は実れば実るほど穂が垂れる人間身の有る方々だと思います。



50歳を感じました

最近頻繁に肩がこるようになってきました。そんなにハードな仕事をしているのでは有りませんが何故か週末にはマッサージに行きたくなります。体自身が疲れると言うより、精神面が凄く疲れているのだと係りつけの医者には言われますが自分自身が50歳になっても頭の中はまだ四十台のつもりなのに体はやっぱり五十台になってしまっているのかなと思う昨今です。

週の初め月曜日は正直体が重いです。火曜日から木曜日あたりが、一番体調が良く体も頭も動きます。しかし金曜日位になると少し疲れが溜まりそして足取りも遅くなります。

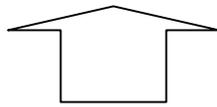
ところが好きな遊びをしている時は年齢を感じません。それは本当に不思議だと思います。写真は十月十九日に和歌山県の白崎海洋公園にスキューバダイビングに行った時の物ですが、この日は3ダイブしました。最後のダイブが141本目でした。100本を越えると其れなりに上手になってきます。2~3年前ならウエイトは6キロでした。今は体に負担が来ない2キロないし3キロで泳げるようになりました。(初心者は沈まない傾向が有りオーバーウエイトにする。適正なウエイトは体重の5%です。)



一番右の方がインストラクター、真ん中がコンピューターのプログラマー、共に30歳の青年です。

一番左が私ですが、二人には五十歳とは思えない位若いですなとお上手を言われますが、自分自身は二人を見るたびに若さとは素晴らしいものだなーと感じる昨今です。スキューバダイビングは私にとって素晴らしいスポーツです。仕事も家庭の事も全く考えずにいられる時間を与えてくれる唯一の物です。泳いでいるときは水と戯れて何とも言えない癒しを与えてくれます。

私が思う長生きする為の秘訣は何も考えずに一日を過ごすことが出来る時間を如何に持てるかがだと思っております。



FAX番号072-422-8577

見学会アンケート

Q 1、是非服部さんの工場を見学したい。

はい

いいえ

Q 2、はいの場合質問項目を少し書いてください。

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
FAX番号	

株式会社 服部商店
大阪府岸和田市木材町16-1
TEL 072-438-0173
FAX 072-422-8577
担当 服部雅章